

令和元年度 門川町立門川中学校 学校評価書

※二重アンダーラインの数値は、前年度比で上昇している項目

学校の教育目標	○ 人間尊重を基調として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。				
めざす生徒像	(1) 向上心に燃え、自ら学ぶ生徒(知) (2) 思いやりと奉仕の心のある生徒(徳) (3) 心身ともに健康でたくましい生徒(体)	めざす教師像	(1) 夢をもち、教育愛に燃え、使命感に徹する教師 (2) 自ら研修に努め、実践する教師 (3) 生徒・保護者・地域の人に信頼される教師	めざす学校像	(1) 知性・徳性豊かで生き生きと動いている学校(敬愛) (2) 明るく楽しい学校(協同) (3) 静かで美しい学校(勤労)
学校経営ビジョン	教職員一人一人の自信と誇りと情熱を基盤に、地域との連携を図りながら、生徒一人一人のためになる教育活動をよりよく創り、生徒が「夢と希望」をもって生き生きと生活する学校を構築する。				
評価項目	取組状況	達成状況	学校運営協議会委員意見	今後の方策	
1 学校経営	○ 学校の教育目標・方針は、地域や生徒の実態を的確に捉え、保護者のニーズを反映したものになっているか。				
学校管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標や方針については、入学式、PTA総会、参観日等の場で説明したり、校長室だより、PTA新聞等を配付したりして、保護者等への啓発を行った。 学校職員と運営協議委員の方々の意見交換会を実施した。双方の意見を共有した。 	<p>保護者への調査結果</p> <p>【学校の教育方針を理解している。】 鉢 75% 俵 69% 苅 74% <u>連83%</u> 【本校で生活させてよかった。】 鉢 88% <u>連88%</u> 苅 86% 俵 88%</p> <p>教員の自己評価の結果</p> <p>【生徒は学校生活を楽んでいる。】 令和元年度 3.2 (H30 3.1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学生が地区の行事等に参加する機会が増えている。今後も期待している。 学校運営協議会を経て、学校の教育目標の理解に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会のお力添えをいただくとともに、様々な広報手段を駆使して、保護者、地域に学校の取組を発信しながら、理解と協力を得ていきたい。 	
2 学力向上	○ 生徒は学力を向上させるために、主体的に授業に参加しているか。また、教師は生徒が意欲をもって取り組む授業を実践しているか。				
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上を図るために、全国学力・学習状況調査やみやざき小中学校学習状況調査等の結果を分析し、特に、平均点以下の生徒の学力向上を目指し、授業改善に取り組んだ。 定期テストに活用問題を取り入れるよう工夫した。 新聞記事の活用等、生徒の読解力の向上に努めた。 	<p>全国学力・学習状況調査やみやざき小中学校学習状況調査等の結果は、県の平均に達してはいるが、少しずつ県平均との差が小さくなっている。</p> <p>保護者への調査結果</p> <p>【子どもの学力は向上している。】 鉢 50% 俵 52% <u>苅49%</u> 俵 50%</p> <p>教員の自己評価の結果</p> <p>【生徒の学力は向上している。】 令和元年度 2.3 (H30 2.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観を通じて、学力向上に対する教員の日頃の努力が感じられた。 自分の意見をまとめ、表現することが苦手な生徒が多い。 体育大会、秋桜祭は、どの学年もやる気を感じた。クラスが一致団結して学校コンクール等の行事に取り組む気運を継続して高めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校調べや、職場体験学習、職業学習といった進路学習や、外部講師による講話や立志式等の行事など、キャリア教育を通して、自分の夢の実現のために今、自分自身がすべき事を考えさせる機会を設けていきたい。 新たな時代に生きることを前提に、表現力、思考力を高める取組を研究していきたい。 	
授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が、年1回以上は研究授業に取り組み、授業力の向上に努めた。 各種学力調査結果の分析や指導方法の工夫改善についての情報交換を行うなどして、教科部会の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業がわかりやすいと回答した保護者の割合が、増えている。日々の授業実践が、生徒を通じて保護者にも理解されていると思われる。 <p>保護者への調査結果</p> <p>【授業が分かりやすいか。】 鉢 55% 俵 56% <u>苅60%</u> 俵 49%</p> <p>教員の自己評価の結果</p> <p>【生徒に分かりやすい授業づくりに努めている。】 令和元年度 3.2 (H30 3.3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教員のやる気を見せる姿勢が、生徒の力を引き出す要因となると考えるので、これからも頑張ってもらいたい。 各クラスとも授業の雰囲気は落ち着いてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も保護者調査で、授業の分かりやすさについての評価数値を、本年度以上を目標としたい。そのために、職員同士での授業参観等、効果があがる取組を研究していきたい。 生徒の授業に臨むための学習規律の定着を一層図りたい。 授業づくりにおいて、「問いを持たせる指導」の充実を図りたい。 教科部会によるテスト結果の分析と学力向上に係る実践を進めたい。 	

3 生徒指導	○ 生徒は、きまりや時間を守り、あいさつをきちんと行う等の生活態度がしっかりしており、安心・安全に学校生活を送れているか。			
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、生徒指導委員会を開催し、指導体制を共通理解するとともに、生徒に寄り添う生徒指導の充実に努めた。 生徒会の活性化を図り、各学校行事で、生徒自らが自主的な活動ができるように支援した。 毎月実施している生活アンケートを活用し、生徒が楽しく、学校生活が送れるように努めた。 	<p>保護者への調査結果 【学校は生徒指導に力を入れ、その成果が上がっている。】 ♂68% ♀66% 2年64% 3年73%</p> <p>教員の自己評価の結果 【生徒会活動は充実したものになっている。】 令和元年度 3.0 (H30 2.9)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者、教職員の評価はわずかが上昇している。更なる活動の充実と危機管理の徹底により未然に問題を防止する手立てを徹底したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中のラジオ体操等の地区行事に中学生がリーダーとなり、小学生の指導をしてくれる姿が見られた。 中学生の動きが地区の活性化につながると期待している。今後とも地区行事への積極的な関わりを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや言葉遣いなど、対外的な部分での基本的な生活習慣の定着を目指し、今後も指導していきたい。 生徒会活動において、新たにボランティア活動担当を設置して、他のために貢献しようとする意識を高めたい。
基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 「無言清掃」の徹底を図り、校内の清掃活動の充実を図っている。 P T Aと連携し、「子どもの成長を支え育む“かどがわ4か条”」に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 無言清掃に取り組むとともに、校内の環境整備を図ったが、不十分な点もあるので更に徹底したい。 校内外での問題行動も前年度に比べ減少しており、校内も授業の雰囲気は落ち着いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外での問題行動はほとんど見られない。 S N S等の弊害と有効な活用について、啓発活動も必要ではないかと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> S N S、特にスマートフォンの活用については、学校でも研修等の機会を設けるとともに、保護者への研修の開催等、家庭との連携を更に深める取組を考えたい。
4 心の教育	○ 誰にでも思いやりをもち、人権感覚を高めるための指導や、いじめや差別は何があっても絶対に許さない、という心の教育に力を入れているか。			
望ましい人間関係などの心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間や学級活動などを通して、心で考える大切さを学ばせ、実践できる力を身に付けさせる指導を行った。 人権教育の時間を設定し、一人一人の人権感覚を高める取組を行った。 道徳の授業研究に取り組み、「特別の教科 道徳」の在り方を研究し、町内の小・中学校に公開した。 	<p>保護者への調査結果 【学校は人権教育の推進に力を入れている。】 ♂69% ♀68% 2年68% 3年71%</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員研修で、Q-U検査の分析や活用方法について研修し、学級の生徒の状況を把握し、指導に生かした。 考え議論する道徳を目指し、道徳の授業研究に取り組み、生徒の道徳性を高める努力をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や、学級活動等を通して、「心の教育」「人を思いやる力」「人権啓発強調月間」「人権週間」等を、家族と話し合う好機としてほしい。 外部講師による講話など生徒に人権意識をもたせる体験をさせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒の対応については町や関係機関と連携しながら生徒のケアに取り組む。 人権教育は、全教育活動で取り組むべき内容であることを職員にも意識付けて、常時指導とともに、人権週間等を利用した授業や、集会の開催等に取り組みたい。 生徒の心に響く道徳の授業研究に、引き続き取り組んでいきたい。
5 地域社会との連携	○ 学校行事等を通して、地域社会や家庭等と連携を図りながら、地域の方々や保護者から信頼されるよう、開かれた学校として機能しているか。また、地域の人材を学校行事や教科指導等において積極的に活用しているか。			
地域社会との連携を図り、開かれた学校としての機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> P T A総会、参観日、参観週間、家庭訪問、地区懇談会、各種通信等を通して、学校の教育目標や方針、教育活動等について、保護者や地域社会への啓発を行った。 地域人材を活用し、地域体験学習や職場体験学習、「社会人よのなか教室」、ボランティアによる読み聞かせを実施した。 1年生の数学に、地域の数学支援ボランティアの協力をいただき、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。 	<p>保護者への調査結果 【学校は保護者とのコミュニケーションを大切にしている。】 ♂75% ♀73% 2年72% 3年78%</p> <p>【学校は地域活動へ積極的に参加し、地域との連携を密に図ろうとしている。】 ♂73% ♀69% 2年76% 3年73%</p> <p>【学校は、保護者および地域社会に信頼されている。】 ♂72% ♀69% 2年70% 3年78%</p> <p>夏休みのラジオ体操等の地区行事に中学生が活動する場面が多く見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に地域の人材を活用していくことで、「働き方改革」にも貢献できるのではないかと思う。地区も協力は惜しまない姿勢である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、学校の教育活動への地域人材の活用を積極的に進め、地域との連携、相互理解を図りたい。 『校長室だより』やHPを利用して、保護者に地域人材を活用した教育活動の様子を周知したい。